

## 地球科学トピックにおける Twitter の有効な投稿時間帯の検証実験 Varification Experiment of Effective Time Zone of Contributing at Twitter for geoscience topics

片山 智弘<sup>1\*</sup>, 鹿園 直建<sup>2</sup>  
Tomohiro Katayama<sup>1\*</sup>, Naotatsu Shikazono<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 慶應義塾大学理工学部, <sup>2</sup> 慶應義塾大学 SFC 研究所  
<sup>1</sup>Faculty of Science and Technology, Keio University, <sup>2</sup>Keio Research Institute at SFC

Twitter は無料で使用でき、全世界に 2 億人のアクティブユーザー（月に 1 回はつぶやいているユーザー）を抱えていると言われる巨大 SNS である。そして、リツイートやお気に入り登録など受信した情報の拡散・保存の手段を持っており、プライバシー設定をしなければ全世界に投稿したメッセージが公開されるので、これは広報手段としても有効な情報ツールである。

しかし、Twitter は情報がタイムラインに流れて消えるまでの速度が、投稿文字数の短さとユーザーの多さから他の SNS に比べて非常に速くなっている。そのため、発信した情報が視認されない、あるいは拡散されないまま、ターゲットユーザーのタイムラインから流れてしまう可能性がある。

これを防ぐためにはユーザーが最も積極的にタイムラインをチェックし、リツイートなどの拡散行動やお気に入りといった保存行動を特に多く行う時間帯はどこなのか、そしてそもそもそういう時間帯が存在するのかということを検証していく必要がある。これは研究者だけでなく、近年環境問題や資源問題、自然災害等と深く関連し、一般の人への関心も比較的高まっている地球科学でも同様である。

そこで本研究では、地球科学に関連するツイートをつぶやいたことがあるユーザーだけを積極的にフォローして集めている @Geoscience\_bot ([https://twitter.com/Geoscience\\_bot](https://twitter.com/Geoscience_bot)) を用いて、1 日毎にツイッターの投稿時間とその投稿に対するレスポンス（リツイート、お気に入り登録、簡易リツイート、返信）の有無を 60 日間記録して、その両者の相関を分析した。そして地球科学の情報発信を地球科学に興味を持っている人へ行うにあたり、特に投稿へ有効な時間帯や曜日はいつなのか分析・検討を行った。

キーワード: Twitter, ソーシャルメディア, 広報  
Keywords: Twitter, Social media, Publicity